

令和 6 年度 第 2 回学校運営協議会

記録：岡

1. 日 時 : 令和 6 年 10 月 22 日(火) 15 時～16 時 30 分
2. 会 場 : 三国丘高等学校 校長室
3. 出席者 :

〔委 員〕田中満公子会長、仲林信至副会長、井上博史委員、河野泰之委員、吉岡哲郎委員
(田村啓委員：ご欠席)

〔学校側〕藤井光正校長、田中和代教頭、中島泰志事務部長、大塚雅之首席、渡部英輝首席、
宮根隆教諭、北川晃士教諭、辻本幸美教諭、田中洋平教諭、神宅浩司教諭、
中屋江里子教諭、岡晶教諭、矢野朋花教諭

4. 次 第

① 校長挨拶

本日の各議題では、いろいろな場面で成果が出てきている反面、この期間で様々に課題も見えてきております。短い時間ではありますが、本日はよろしく願いたいします。

② 議事

(1) 令和 6 年度学校経営計画の進捗状況について

【学校】 まずは資料 1 に基づいて説明する。1 (1)－アについては CS における成果・進捗であり、理系では日本生物オリンピック本選に 3 年生が出場、文系では高校生ビジネスプラングランプリやスタートアップ甲子園に例年通り参加し、大阪大学賞などを受賞した。

次に、学校行事等に関して説明する。今年度の体育祭は熱中症の対策として 9 月 3 週目に期間を下げたものの、猛暑により全プログラムは実施できなかった。一方、新たな取り組みとして団 T シャツを導入した。団 T シャツの導入は大会に華やかさを加えたほか、従来の体操服より涼しく過ごすことができたため、有用であった。ただ依然として猛暑であり、来年度からは大浜体育館などを借りて室内での開催を考えている。

また、前期生徒会長の公約であった「三丘祭」も実現した。これは生徒自身が発案し創り上げる企画で、非常に三国丘高校らしい企画と言える。今後も継続予定。入部率については 2 年連続で 100%超、相変わらず部活動は盛んだと言える。

人権は同和問題を題材にした講話を予定している。国際交流については、迎えた校数がコロナ後最多となった。韓国・台湾(2 校)・インドなど増加傾向。修学旅行も台湾を考えている。

資料裏面、三丘セミナーについては、商社や大学、病院などから講師を招き、ご講演をいただいた。進路交流会としては78期で職業講話を予定。進学実績は、5大学+医学部医学科で進学率55%超を目指している。これは3年ほど前の実績を少し上回る目標数値であり、昨年度はこれに及ばなかった。超過勤務時間についてはGL10校中で1番短い、昨年度と比べれば若干増加傾向。安全衛生委員会は例年通り毎月開催を継続。いじめは2件認知している。

資料2は教育課程実施計画であり、来年度は、2年文系の理科基礎2単位減、数学1単位増を予定。理科の2単位減については2年3年次ともに演習をするには内容的に厳しいため、理科を3年に回して、より演習を必要とする数学で補う形となった。

資料3は授業アンケートの結果である。府立学校でも非常に高いスコアを記録している。

【委員】 授業アンケートの1項目あたりの最高点は何点か。またその採点の基準は？

【学校】 全府立高校統一で最高点は4点。統一した基準はなく各項目4段階で生徒が採点する。

【委員】 経験年数が若い先生の方がスコアは高いのか？

【学校】 一概にそうとも言えない。最高スコアはベテランの先生が出している。

【委員】 若い先生のスコアが高いのには外見も影響しているのではないか。

【学校】 そうとは言えない。授業を見るとスコアと授業のクオリティの整合性には納得がいく。

【委員】 ICTの活用は若い先生の方が長けているように思うが、それによる視覚的な理解がスコアを伸ばす一因としてあるように思う。

【委員】 スコアと生徒の成績に関連はあるのか。

【学校】 詳しく調べたわけではないが、成績と関連しているだろうと思われる。

【委員】 主体的なグループワークは若い先生が得意で、知識注入型の授業はベテランの先生が得意ということがスコアに表れているということはないのか？

【学校】 すべての授業を見た上で、それは感じない。

【学校】 生徒がこうしてほしいと思うことと、教員が生徒に要求することの間には乖離があって当然なので、教員はこのスコアを重要な参考資料と捉え、若手もベテランも授業改善に真摯に向き合うことが求められていると思っている。

【委員】 やはりスコアと成績の相関は取ってみるべきだと思う。

【委員】 地学が無くなった理由は？

【学校】 地学の教員がいない。大阪府全体として地学の教員がそもそも少ない。

(2)各学年の状況について

《 3 年 》

【学校】 ここにきて欠席者が増加傾向。特に精神的な面でそれが多く、塾や入試のプレッシャーが大きいよう。だが、毎日平均 19 人の欠席・遅刻者がいる状況は少々多すぎる。コロナ禍中に少ししんどければ休むよう言われてきたことが影響しているのではないかと推測している。休みは特定の生徒に集中している。

勉強の様子は人それぞれ。現在は夏に受けた模試の結果待ち。明日、昨年度の卒業生を招いて、この時期をどう乗り切るかを話してもらう予定。担任会では個々に声をかけて不安を取り除くことが大事だと話している。

【委員】 3 年生の遅刻・欠席の数といじめは関係あるのか。

【学校】 遅刻・欠席といじめは全くの無関係。不登校にもなっていない。

【委員】 進路指導の際に 5 大学＋医学部を受けたらどうかという指導はするのか。

【学校】 そういった指導を中心に行っている。

【委員】 地元(関西圏)の大学に行けと言う指導は本当にいいことなのだろうか。日本中の大学に卒業生が散って行って、それから帰ってきてもらうのが堺のため、三国丘高校のためではなかろうか。もっと多様な生き方を生徒に示すのも一つの方向性かと思う。

【学校】 資料の関係で 5 大学＋医学部があがっているが、地方に行く生徒もいる。ご指摘のように、地方の大学を含め広く日本、さらには世界に目を向けていくことは大事だと思う。

【委員】 生徒たちは地元の学校に行きたがるのか。

【学校】 その傾向が強いと感じている。

《 2 年 》

【学校】 修学旅行で北海道に行ってきた。大きな事故や病気もなく無事に終了。昨日、駿台模試を受けたがかなり難しかったようで、そのフィードバックをどうしていくかが課題。だが、第 1 希望を貫けという方向での指導方針は曲げない。冬休み明けの校内実力テスト・共通テスト同日テストを経て受験生となっていく中で、受験をタフに乗り越えていけるよう学年で指導していく。そのためのフィールド作りも引き続きしていく予定。

《 1 年 》

【学校】 入学から半年経ち、理想と現実の差を知って苦しみ始めているが、それが普通。そこからどうしていくかを学年団で指導していくことが重要。

修学旅行先は台湾。これを軸に見据えて異文化交流の充実、英語力向上、団結力向上をめざしてこの1年指導していく。今年11月と来年1月に台湾の学校が来校するので、その機会を上手に使っていききたい。

進路に関しては大学に興味を持つ機会として、夏休みに見学などに行った大学のPRポスターを作らせて全員で発表・投票し、グランプリを選出。その他にも研修や講義にも積極的に参加してきており行動力はあるため、ここを伸ばしていきたい。

(3)スーパーサイエンスハイスクールの取組みについて

【学校】 資料7に基づいて説明する。SSHは現在3期3年目。4期目をめざす。2. 実践科学実験は例年通り実施。3. 探究活動では、生徒の発表の場を増やすことを目的に、3/4ミーティングを新たに設けようと考えている。3. 体感校外学習については記載の通り。4. 科学系コンテストについても記載の通り頑張っており、生物オリンピックは本選に出場。5. 学生科学賞で4班中2班が最優秀賞・優秀賞を受賞、CSの単位増が良い影響をもたらした結果なのではないか。坊ちゃん科学賞については生徒が自主的に応募。「自主性」という点で評価できる。科学の甲子園に関しては鋭意進行中。

(4)スーパーグローバルハイスクールの取組みについて

【学校】 資料8に基づいて説明する。8月3日から7泊8日で2年生がフィリピン研修。教頭も一部参加。1~2日目移動・観光でフィリピンの環境に慣れる。3~4日目エンドラン大学の大学生と交流、生徒もすぐに打ち解けていた。5日目アジア開発銀行で日本人スタッフの話を聞く。6日目マウント・プーロ自然保護区訪問。7日目伝統産業体験・大学生との交流など。感想やアンケート結果からは良かったという評価が多い。マウント・プーロに関して評価が低いのは雨中での登山だったためやむを得ない。登山は来年再考の余地ありと考えている。

【委員】 特に主任が印象的に思った感想は。

【学校】 1日目にストリートチルドレンの少女に会ったことが衝撃的かつ印象的だったという感想が多くみられたことが印象に残っている。ストリートチルドレンの少女がいる一方で、周りには大きいビルも林立しているため、そういう格差に触れることができた点は生徒にとって勉強になったのではないかと思う。

- 【委員】 今後の誓い(p.10)に生徒たちは(今回の経験などを) どうつなげていくのか？
- 【学校】 自分の環境を顧みて、現状に甘えていたらいけないというところに繋がってあげばいいと思う。
- 【委員】 研修に参加した生徒が他の生徒に発表する場はあるのか？
- 【学校】 特に設けてはいない。
- 【委員】 特に下級生に向かってそういう機会を設けると、次の年に行く生徒らにもつながるかと思う。
- 【学校】 帰国後すぐお盆になるので調節が難しいところではあるが検討してみる。
- 【委員】 自分たちが途上国を助けてあげなければならないという意識から出発すると現在のグローバル社会の在り方と違うのではないか。この人たちと一緒にやっていくんだという意識に気付くことが必要かと思う。
- 【学校】 助けてあげる側だという意識はあまり持っていないと思う。むしろ生徒らは大学生にとっても助けられていたので、周りに色々してもらっただけでいいのか？という気付きにもって行きたい。

(5)進路指導関係の状況について

- 【学校】 資料9に基づいて説明する。今年度の共通テストはほぼ全員が出願。昨年度とほぼ変わらない。推薦入試は記載の通り。今年は地方大への推薦入試の出願が無い。地元志向が非常に強い。その理由としては、公立大の授業料無償化が大きいと考える。大学でやりたいことではなく、近さ・安さといった外的要因で志望校を決める傾向が今年の3年生には強くみられる。
- 【委員】 保護者の意見を子どもが踏まえるようになったというのはあるか。
- 【学校】 ある。保護者の意見の影響力はかなり大きくなっている。生徒自身が大学を調べきれてないことと、生徒自身にやりたいことが無いというのも原因としてあるかと思う。それ故、主に経済的な面等で保護者が望む「安さ・近さ」を聞き入れ、それらを優先しがちになっているようにも思う。今年の3年だと夏段階で公立大への進路希望変更がかなり見られた。大学に入ってから生徒の勉強や生活が懸念されるところである。
- 【委員】 進路交流会でもっと地方の生徒を招くべきではないか。
- 【学校】 夏の進路交流会では地方からも帰ってきてもらっているが、春・秋となると大学の授業もあるため帰ってきてもらうのが難しい。
- 【委員】 オンラインでは。
- 【学校】 現在はやっていないが、できるのであればやってみるのもいいかと思う。

- 【委員】 関西圏の大学しか選択肢にないのは視野が狭すぎるのではないか。少なくとも日本全体が視野に入るぐらいには持っていくべきだと思う。
- 【学校】 これが一番の課題かなと思う。少しずつ変えていきたいが、保護者の感覚はどうすれば変わるだろうか？
- 【委員】 現在は親子関係が良い場合が多い。子どもがしっかりと意思を表明しさえできれば保護者もそれに納得してくれるのではないだろうか。
- 【学校】 浪人できるか否かについても保護者の意見が大きい。保護者が浪人は絶対にダメだとする場合が多い。特に今の1年生などは、既に公立大志望者が例年の2倍近くいる。高校に入ってきてすぐの段階からこんな違いが出るのは、やはり保護者の意見が大きく反映されている影響なのかなと思う。
- 【委員】 生徒はどれくらい政治に興味があるのか。
- 【学校】 新聞に載るようなメジャーなニュースには興味を持っている。ただ、ネットニュースなどで表面的に知っているだけのようにも感じる。
- 【委員】 中学校では政治にも目を向けるような話をしている。入試以外にもそういった話にも広く目を向けさせるべきではないか。
- 【学校】 実際問題、入試という価値観に引っ張られて視野が狭くなっていることはあるし、それ以外の価値基準を理解できない生徒すらいる。そういう点では心配である。
- 【委員】 大学で何をしたいか分からない生徒が多いとの事だが、進路指導の時に、最低限どの科目をしたいのか…くらいは決めておくべきではないか。その方がより意欲的に大学に向かえるのではないか。
- 【委員】 生徒のやりたいことが無いというのと、保護者の影響が大きいというのが相まって視野が広がらないという現状が生まれているということであるならば、保護者の価値観に直接働きかけるしかないのではなかろうか。たとえそれが中長期になろうともやるべきだろうと思う。
- 【学校】 検討したい。

次回日程

令和7年1月24日(金) 16:30～17:30 開催(14:55～15:45 南極授業のため)

以上